

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	神埼市立千代田中部小学校
1 前年度 評価結果の概要	昨年度は、「ほめほめ活動」を行い、児童の自己肯定感、自己有用感を高めることで、学習面、生活面どちらにおいても児童の意欲を引き出すことができた。それにより、ほとんどの評価項目において具体的目標の数値を達成することができた。しかしながら、健康・体力作りにおいては「睡眠時間の確保の習慣化」、学力向上においては「読書の充実」、業務改善においては「起動時間の削減」の3点において達成することができなかった。
2 学校教育目標	たくましく 賢く、ともに生きる児童の育成
3 本年度の重点目標	1 自己肯定感・自己有用感の育成（「ほめほめ活動」の継続） 2 学力向上（・校内研究の充実 ・学習指導要領への対応 ・語彙力・表現力の育成 3 全職員で全児童を見守る組織作り

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・マイプランについて、学期に1回振り返りを行い、自身の取り組みへの意識の継続化を図る。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標の達成に向けて努力していると回答した教師が100%だった。「よくあてはまる」と回答した割合が、31%から60%に向上した。全職員が、マイプランを意識して取り組むことができた。	A	・①学力向上に向けて対策をとっていけば向上し、その結果は子ども達に教学として明確に示せる。②安定した学級は、学習に集中でき、学力も伸びる。③学級に少しでも問題点があれば、早急に対策をとる。等の校長先生の話を聞いて、校長先生の指導の下、先生方が一丸となって教育に取り組んでおられる結果だと思う。素晴らしいと思う。
	○一単位時間の充実 (算教科における導入の工夫と、終末の適応問題の取り扱い)	○算教科の授業で、児童の学習意欲を高める導入や終末の適応問題の適切な取り扱いにより、基礎的基本的な内容の確実な習得に結び付けたと回答した教師85%以上	・校内研究で、導入の工夫や終末の適応問題の取り扱い方を視点にした授業づくりについて、研究を深める。	A	・算教科の授業で、基礎的基本的な内容の確実な習得に結びつけていると回答した教師が100%だった。 ・校内研究で、研究授業及び授業研究会を3回開いた。児童の実態を把握し、分かりやすい授業を展開するための工夫や努力を行ったと答えた教師は100%で、教師の授業力向上に繋げることができた。	A	・学習状況調査の結果を見ても、先生方のご努力と意識の高さが顕著に表れていると思う。
	○語彙力・表現力の育成	○週末の作文の課題に関するアンケートで、「書くこと」について肯定的な回答をした児童85%以上 ○学習状況調査等の記述式の問題で、無回答率が県平均よりも下回る。 ○本の目標貸し出し冊数を達成した児童75%以上	・週末の作文について、児童の語彙力・表現力をほめる活動を行う。 ・児童の読書意欲を高める働きかけを行う。	A	・「書くこと」について肯定的な回答をした児童は81%だった。 ・学習状況調査等の記述式の問題で、4年生は無回答率が県平均よりも多かったが、5・6年生は無回答率が県平均よりも少なかった。全体的に、無回答率が減ってきている。 ・本の目標貸し出し冊数を達成した児童が93%で目標の75%を大きく上回った。	A	・最近、子ども達の教育の中にも、PC環境が充実し始めている中、書くことは大変重要な事と思う。週末作文とほめほめ活動は、大変素晴らしいと思う。先生方のご負担は大きいかと思うが、是非継続し、中部小の文化的な取組の一つになればと思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童90%以上 ○年間を通して、ボランティア活動へ参加したと答えた児童が80%以上。	・なかよし集会や道徳に関するアンケート(挨拶、言葉遣い、農園活動、縦割り活動、無言掃除)を実施する。 ・ふれあい道徳教育を年1回以上行う。 ・保護者や地域の方と連携した体験活動を行う。	A	・道徳授業については、肯定的な回答をした児童が90%で、保護者が100%だった。 ・「ふれあい道徳」は、全クラスともに1回以上行い、100%だった。 ・ボランティア活動については、コロナ感染が収まりかけた10月頃から、地域で保護者や地域の方との体験的な活動が行われるようになり、活動に参加する児童が増えてきた。校内では、学校農園の水やり、朝掃除、ゴミ拾い、スリッパ並べなど進んで行っている児童が85%だった。	A	・保護者の評価が100%は、素晴らしい。先生方への信頼の評価とも思う。コロナ禍で、コミュニティが不足がちの環境であるが、引き続き、ボランティア活動などを通して、積極的な推進をお願いしたい。 ・異学年交流が、充実していてとてもよい。 ・いじめ事案が発生している事を受け止めて、意見するとすれば、「道徳」を如何に教え、「道徳」を重んじる心を育むことは、重要な取組と思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教師90%以上	・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修会を年間に2回以上行う。 ・心のアンケートを毎月実施する。	A	・「いじめ」の定義といじめ発生時の対応を、佐賀県いじめ防止基本方針を基に全職員で確認した。 ・いじめについて、組織的対応ができたと回答した職員は、93%だった。 ・夏期休業中に講師を招聘し、いじめについての職員研修を行い、冬期休業中にいじめ問題への対応に関わる校内研修を行った。 ・児童向けにネットトラブルに関する講演会を開いた。 ・年間を通して「月の心」「OURターゲット」「いじめ実態調査」のアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努めた。	A	・早期発見・対応は、評価する。組織的対応ができている取組は、素晴らしい。この取組が継続すれば、いじめ解消・防止に大きく寄与するものと思う。 ・早期発見・早期対応されていて、保護者としても、安心する。
	◎自己肯定感・自己有用感の育成	◎自己肯定感・自己有用感を尋ねるアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童70%以上	・支持的風土の学校・学級づくりに努め、日頃から、自分や友達の良いところを見つけほめる活動を推進する。	A	・褒める活動を継続した結果、自己肯定感・自己有用感を感じる児童が82%から87%に増えた。全校挙げて、自分や友達の良いところを見つけて、褒める活動を継続してきたことが、効果を挙げた結果だとと言える。	A	・ほめほめ活動は、素晴らしい。先生方が子ども達をほめるだけでなく、子ども達同士もほめる活動ができているのは、素晴らしい教育だと思う。引き続きほめほめ活動を継続していただきたい。 ・ほめほめ活動は、素晴らしい。自己肯定感が上がることで、根拠のない自信を付けて、人生を過ごしていく力として欲しい。
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○安全に気を付けて登下校できたかを尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした児童90%以上	・学級活動で、児童に安全な登下校について考えさせる授業を行う。 ・登校班での話し合いを月1回行い、安全に登下校する意識をもたせる。	A	・安全に気を付けて登下校できたかについて尋ねるアンケートについて肯定的な回答をした児童が99%だった。 ・児童の交通事故は、年間通して1件もなかった。	A	・学級活動での安全教育的ほかに、自治体や地元の警察など、地域で子ども達の安全を守る活動も積極的に取り入れ、交通事故ゼロを引き続きよろしく願います。 ・交通安全教育の取組は、評価できるが、児童一人一人の交通安全への認識は不十分と思う。
	○自らの生活習慣を見直し、修正できる能力の育成	○睡眠時間の確保について尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした児童90%以上	・学期に1回、生活習慣見直し週間を設定する。	B	・睡眠時間の確保について尋ねるアンケートで、肯定的な回答をした児童が86%、保護者は83%だった。 ・高学年になるにつれ肯定的な回答が少なかった。睡眠時間の確保が、体や心の成長に結びついているなど、睡眠の大切さについての自覚が十分でない面がある。	B	・高学年になればなるほど非常に難しい問題だと思うが、成長面・健康面他睡眠の大切さを引き続きご指導お願いしたい。 ・大人になっていく子ども達に、睡眠の大切さを補え付けていくことは、とても大事かと思う。しかし、各々の家庭事情も様々なので、難しいと思う。繰り返し地道に指導していくより他ないかと感じる。 ・生活習慣見直しの取組は評価する。しかし、児童の生活習慣の乱れが、何処に起因しているかの研究の必要性を感じる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・パソコンによる業務管理の徹底を管理職自ら行う。	B	・「業務効率化を意識して勤務し、時間外勤務時間の上限(月45時間)に努めている。」と回答した職員は84%だったが、実際守れている職員は、82%だった。中間評価の79%に比べると、時間外勤務時間の上限を遵守しようとする職員の意識が高まった。	B	・新型コロナウイルス感染症対策をしながらの業務効率化の取組は大変評価する。頑張って欲しい。 ・決められた勤務の中で、如何に業務を軽くできるかだと思う。補助的役割の雇用で、業務軽減して欲しい。(教室掃除、テストの〇つけなど)
	○3部会制の導入による学校運営への参画	○自らの校務分掌において、学校目標達成のための働きができたと回答した教師85%以上	・自己申告書の自己目標と学校評価で担当した校務分掌上の目標を連動させ、日常の業務を遂行する。	A	・第2回学校評価アンケート(教職員用)の結果で、「学校の教育目標及び目指す教職員像の具現化に向けて、自分の校務分掌について理解し、組織の一員として取り組んでいる。」と回答した職員は100%で、目標の85%を達成していた。今回は、「取り組むことができなかった。」と回答した職員がいなかった。全職員が、自分の校務分掌上の役割や目標を明確に見定めて、業務に取り組むことができた。	A	・先生方の教育目標への意識の高さ、積極的な取組は素晴らしい。引き続きお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ユニバーサルデザインに基づく教育環境整備	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境整備 ○授業のUD化の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境整備について尋ねるアンケートで、肯定的に回答した教師85%以上。	・ユニバーサルデザイン教育について、特別支援教育コーディネーターを中心に、校内研修会を年に2回行う。 ・特別支援教育について、校内研修会を年1回以上行い、配慮を要する児童の特性等について理解を深める。	A	・ユニバーサルデザインについての研修会を年2回実施した。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境整備について尋ねるアンケートで肯定的に回答した職員は100%で意識の高まりを感じた。 ・特別支援教育の校内研修会を年2回、配慮を要する児童の共通理解する場を年4回実施し、子どもの行動や児童の特性等を共通理解し、理解を深めることができた。	A	

5 総合評価・次年度への展望	・学校目標の達成に向けて、教職員一人一人が、自分の校務分掌上の役割や成果指標を明確に見定めて、業務に取り組んだことが功を奏して、ほとんどの取組で、A評価だった。 ・前年度からの課題であった「睡眠時間の確保」については、目標の90%を達成することができなかった。今後は、達成できない要因を個別に分析し、「睡眠時間の確保」に向けて、個別に対応していく。 ・「時間外勤務時間」の上限については、中間評価に比べると、守れた教職員が3%増えた。教職員の「業務効率化の推進」「時間外勤務時間の削減」に対する意識の高まりがみられる。次年度に向けて、更に削減できる業務の洗い出しや業務のデジタル化の推進など、工夫できる点を模索していく。 ・保護者、児童、地域住民に、好評だった「ほめほめ活動」については、次年度も継続の方向で計画したい。
----------------	---